

< 報道発表資料 >

2022 年 2 月 14 日

**万全の対策の下、山頂での研究が再開されました
認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会の成果報告会にご参加ください**

2022 年 3 月 5 日（土）13：00-17：30 Zoom によるオンライン開催で 2021 年度の成果報告会を行います。

御存知の通り、昨年度は富士山全面登山禁止が発令される中、本 NPO に所属する研究者たちも、「3 密」が避けられず、かつ地上の 60%の酸素濃度の下で、肺機能障害を起こす恐れのあるコロナへの罹患は致命的になることを考慮し、山頂での研究は全て中止となりました。しかしながら、今年度はコロナウイルスに対するワクチン接種が進み、徹底した体温測定管理、測候所内の人数制限、極寒の厳しい条件を覚悟した換気ダクトを通した空調の徹底管理のもと、山頂における研究活動が再開されました。第 15 回研究成果報告は、それらの研究成果の中から 15 件の口頭発表のほか、鴨川仁事務局長より測候所におけるコロナウイルス感染対策体制などをご紹介します。また、このような過酷な状況下での研究活動について、今年度も多くのメディアに取り上げていただきました。その内容と後日談について、特別講演という形でお届けする予定です。（詳細はプログラム参照：https://npofuji3776.org/seika/images/seika_program2021.pdf）

第 15 回研究成果報告は「大気を診る」、「雲や塵を掴む」、「防災・すごい現象」のセッションで構成されています。いくつかの講演内容をご紹介します。

■第一部 『大気を診る』

国立環境研究所、早稲田大学、帝京科学大学、埼玉県環境科学国際センターなど

世界で深刻な問題として注目されている「大気中のマイクロプラスチック」、地球温暖化ガスである「CO₂ 濃度の最新データ」、越境大気汚染解明に向けた「窒素酸化物の観測」や「エアロゾルの日中韓同時観測データ」などについてご報告します。

■第二部 『雲や塵を掴む』

東京理科大学、埼玉県環境科学国際センター、早稲田大学、静岡理科大学

微粒子と雲粒生成、雲内化学の研究として、雲粒の元となる「氷晶核の観測」、「一滴ごとの雲粒や雨粒の分析」、「雲水成分分析データ」などについてご報告します。

■第三部 『防災・すごい現象』

東京都立大学、東海大学、静岡県立大学

富士山噴火や、激甚災害への防災の観点から「火山性ガスの観測データ」、「富士山麓における全磁力観測データ」、「積乱雲と雷の観測データ」、「ブルースターター」などについてご報告します。

報道関係の皆様におかれましては、土曜日の午後ではございますが、中身の濃い研究発表がたくさんありますので、お時間を割いて頂けますようお願いいたします。

第 15 回研究成果報告開催要項

日時：2022 年 3 月 5 日（土） 13：00 ～ 17：30

会場：Zoom によるオンライン開催

事前申込制：参加ご希望の方は、下記 URL の参加申込フォームよりお申し込みください。

<https://npofuji3776.org/seika/index.html>